

「神のいつくしみと人への愛」

1. はじめに

- ・テトスについて
  - ・ユダヤ人ではなく異邦人。パウロによって回心した。
  - ・クレテ島にいた理由。
    - ①クレテ島のクリスチャンを秩序だてる。一偽教師の問題・会員の訓練
    - ②町ごとに長老たちを任命する。
- ・神学的なポイント
  - ・間違った教えから、正しい教えに（クリスチャンユダヤ主義者に対して）
  - ・テトスに「あなたは主張しなさい」という勧め。（ギデオンの）

2. 本文

- ・恵みの普遍的提供（ユダヤ人だけでなく異邦人も、ヨーロッパ・アメリカ人だけでなく、日本人・アジア人も）
  - ・いつでも、どこでも
  - ・釈尊は理解できなければ去れという、その違い(聖霊と知性)
  - ・予定論ではなく。
- ・行いでなく、信仰への召し
  - ・私が来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するためにきたのです。（マタイ 5 : 17）
  - ・悔い改め・回心の強調とそれをとうしての信仰。
  - ・ただし、応答（自由意志）申命 11:26~28 30:15~20
  - ・パウロのいう人間の標準的な考えとは？ II コリント 5:16
- ・イエスの生涯と教え
  - ・マリヤから生まれた（受肉）
    - ・神が人として生まれたことの議論（カルケドン）
  - ・この世の王を拒否し、十字架への生き方であった
    - ・私たちの人生の概念との比較一ひとりだと弱くなる私たちの現実。
  - ・イエスはことばと行いは父に従ったと証言。 ヨハネ 5 : 19

3. まとめ

- ・私たちはヒューマニズム・民主主義の前提の中で育ちました。聖書からみてどうですか。
- ・仏教からみて信仰とはなんですか。
- ・聖書のいう「神のいつくしみと人への愛」の整理